



すえなが みちなお

## 末永 通尚さん

### プロフィール

41歳。美津島町雞知出身、在住。小学校教諭だった父の転勤に合わせて中学時代まで数回転校。長崎東高校に進んだのち大学進学し上京。卒業後、外資系保険会社・人材派遣業のベンチャー企業に勤務。福岡での生活を経て昨年10月に帰郷。現在対馬市CATVに勤務。趣味は読書・映画鑑賞のほか、茂木浜や三宇田浜でボディボードを楽しむ。最近のブームはダーツ。両親との3人暮らし。

末永さんの少年時代は？

自我が強かったんでしょね。とにかく一日も早く対馬を出たいという思いがありました。島の高校を選んだのも、そんな理由からですね。おばあちゃんが料理を作ってくれるアットホームな下宿に入ったのですが、そこには大学生もいて、いろんなことを教えてもらいました（笑）。偶然、1年生の時の担任の先生が対馬出身の方で、よく面倒をみてくださいましたし、寂しさはなかったです。進学や就職でだんだん対馬から離れていきましたが刺激も多く、楽しかったですね。その頃は対馬に戻るとは夢にも思っていませんでした。

その頃の自分を振り返ると？

訳の分からない変な自信がありましたね。世界を股にかけて活躍するとか、対馬に戻るときは立派になって戻ってこようとか。東京で見た映画「ニューヨーク・シネマパラダイス」に郷愁を感じながら「立派になるまでは絶対に戻らない」と新たに覚悟を決めて仕事をしていました。そして「立派になる」という意味をずっと考えていましたね。経済的にお金持ちになるといふことなのか？社会的に地位や名誉を得ることなのか？何が立派な

のか？って。

充実した東京での生活を引上げて福岡に転居されたのは？

10年ほど前に母が乳がんを患ったんです。ただ見守るだけですが少しでも近くにいてあげたいという思いで福岡へ。でも、結局どこに住んでも、仕事の関係であまり対馬には戻れないですね。対馬に帰ってきて1年が過ぎてますから、今まで年間10日くらい帰省できていたとして、ざっと36年分くらいは毎日会えてるわけですからね。帰ってきて良かったなと思います。

都会の生活と比べて不満はありますか？

以前なら不便も感じたかもしれませんが、でも今は、インターネットなど情報環境が整っていますので、一瞬で世の中の情報を手に入れられる。その取捨選択は難しいかもしれませんが、それはどこに住んでいても同じ。東京に住んでいなくても別に困らないですよ。今の生活には満足しています。

進路や今後の生活を選ぶようにしている人たちに、経験者として伝えるとしたら？

「後先は考えるな！」ということですかね。人間はいつか死ぬわけで、その順番も決まっています。だから思い悩むのはもつ

たいない。周囲の目や言葉よりも、その時本当に自分が後悔しないように選択すればいいんじゃないでしょうか。対馬に帰るか悩んでいる人はいっぱいいると思います。確かに仕事も少ないし給料も低い…。でも何とかあります。自分がしたいと思ったら、進んでみたらいい。

多分、悩んでいたら動けないし動かないでしょう。そうすると諦めちゃう。どうせどうせ…とできない理由を探すことに一生懸命になってしまふ。そんな理由を探す時間があるなら、やりたいこととできる方向を考えたほうが良いと思うんです。

今後の抱負は？

対馬には手つかずの分野がたくさんあります。逆に言うと「チャンス」がたくさんあるということ。商売下手なところが逆によかったです。僕がしている仕事を通して、観光地としての対馬をアピールすることに関わっていただけだと思います。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。今回は藤原町久田にお住まいの松永康成さんです。お楽しみに。